

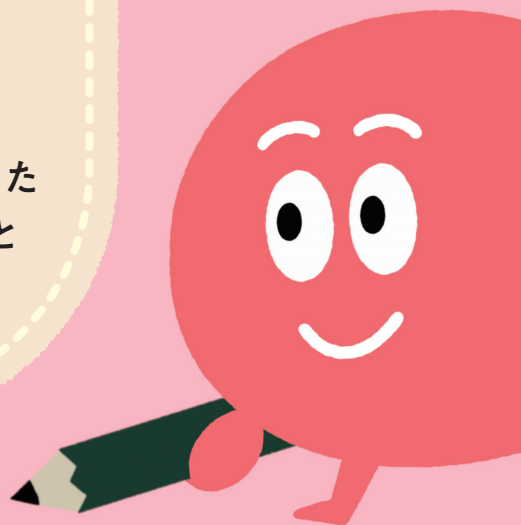
光村ポケット

中学校 道徳

vol.6

新たな不登校を
生まないために

- 1 4つの視点から教師の働きかけを見直す！
- 2 「みんなで学ぶのが楽しい！」「明日もまた学校に行きたい！」と思える居場所へ



光村図書



LINE公式アカウント友だち募集中！
授業づくりに役立つ情報を、
いち早くお届けします。



【教授用資料】 本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

「4つの視点」から教師の働きかけを見直す！

——不登校未然防止のための「発達支持的生徒指導」を意識した魅力ある道徳科授業づくり——

不登校未然防止のための具体的な取り組み方について、生徒指導・進路指導研究センター総括研究官・戸上琢也先生にききました。



国立教育政策研究所
生徒指導・進路指導研究センター
総括研究官
と か み た く や
戸上琢也先生

不登校等の生徒指導上の諸課題の未然防止が求められる今、学校がどの児童生徒にとっても安全・安心に学ぶことができる「心の居場所」となり、良好な人間関係が育成されるように「絆づくりの場」となることが重要です。そのためにも、生徒指導の機能を生かし、学習指導と

生徒指導の一体化を図っていくことが『学習指導要領』や『生徒指導提要』に示されています。

生徒指導と聞くと、問題行動に対処するイメージが強いかもしれませんが、本来、生徒指導は、「児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力

の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える」ことを目的としています。

「道徳教育と生徒指導はいずれも、児童生徒の人格のよりよい発達を目指すものであり、学校の教育活動全体を通じて行うという点で共通

しています。「道徳教育で培われた道徳性を、生きる力として日常生活場面に具現化できるよう支援することが生徒指導の大切な働き」となります。

生徒指導の中でも、普段から全ての児童生徒を対象に、教育課程内外の全ての教育活動において求め

られる基盤となるのが「発達支持的生徒指導」です。例えば、笑顔で接したり、温かい声かけをしたりするなど、日常的な「挨拶や声かけ、励まし、賞賛、対話、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけ」が発達支持的生徒指導になります。生徒指導の実践上の4つの視点（「安全・

安心な風土の醸成」、「共感的な人間関係の育成」、「自己決定の場の提供」、「自己存在感の感受」）から発達支持的生徒指導を意識し、児童生徒の発達を支える働きかけをすることで、誰もが安心して学ぶことができる魅力ある授業を教師と児童生徒が共に創っていくことが大切です。

○ 居 場 所 づ く り ⇄ 絆 づ く り で 魅 力 あ る 授 業 へ ○

ルールのもとで、気兼ねなく意見や「わからない」が言える

安全・安心な風土の醸成 ∞

誰もが安全・安心に活動できる工夫の例

- 道徳科での話し合いのルールの明示をしておく。
- 感想の交流等、誰でも答えられる発問や全員が意見を言える場を設定する。
- 話し合いの場面で「わからない」や「疑問」を聴く場を設定する。

自分たちのことは自分たちで決められる場をつくる

自己決定の場の提供 ∞

児童生徒が主体的に選択・実行できる場の工夫の例

- 一人一人が自分の考えや思いを表出できる場をつくる。
- 個人で考える時間や振り返りの時間を十分に確保する。
- 他の人の意見を参照できる場を設けたり、多様な意見を板書したりし、生徒が自分の考えを深められるようにする。

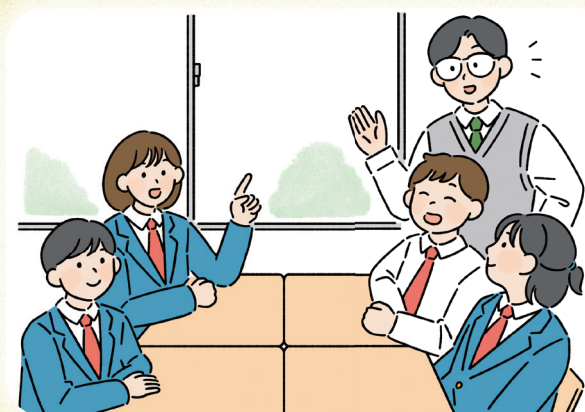
自己決定の場の提供の視点は、学校行事や学級活動でも大切にしたい視点だね。



居場所づくり

教室が児童生徒の「心の居場所」となるように

道徳科の授業で無意識に行っている声かけ、働きかけ、仕掛けを生徒指導の実践上の4つの視点から見てみましょう。



みんなで意識化することで、意図的に声かけをしたり、働きかけたり、仕掛けたりでき、誰にとっても安心して学べる魅力ある授業になります。

絆づくり

教室が児童生徒の「絆づくりの場」となるように

意見を否定せずに聴き合い、支え合う集団をつくる

共感的な人間関係の育成 ∞

認め合い・励まし合い・支え合える集団にするための工夫の例

- 話し合いの際に、相槌等の温かい反応をしたり、認め、励ます共感的な声かけをしたりする。
- 「〇〇さんの～という考えについて、□□さんはどう思う？」と生徒どうしの考えをつなぐ働きかけをする。

学校・学年・学級の一員として大切にされ認められる

自己存在感の感受 ∞

児童生徒一人一人を大切に、個を生かす工夫の例

- ネームプレートを活用し、一人一人の意見を大切にする。
- 端末を活用し、一人一人の意見が確認できるようにする。
- 生徒の疑問やつぶやき、少数意見を大事にして深めていく。

道徳科の時間以外でも、4つの視点を意識すると、道徳教育の充実にもつながるね。



「みんなで学ぶのが楽しい!」 「明日もまた学校に行きたい!」 と思える居場所へ



先 生方は、「どうして不登校になってしまうの
だろう?」「なんとかしよう」と、日々、児童
生徒を取り巻くさまざまな課題に対応され
ていることと思います。

しかし、大切なのは、問題が起きてから対応すること
だけではありません。まずは、**一人一人が安心して過
ごすことができ、充実感や達成感を感じられるように、
教室がセーフティネットとしての役割を果たしていくこ
とが大切です。**「どうしたら、もっと学校に魅力を感じる
だろう?」、「学校が楽しいと思えるためには、どんな仕
掛けをしたらよいのだろう?」という発想に立ち、学校
に関わるみんなで考えていくことで、不登校やいじめ
の未然防止のための前向きな取り組みが進んでいくの
ではないでしょうか。また、不登校になっても、「この学
級なら、ちょっと行事に参加してみようかな」、「この仲
間といっしょなら、自分にできることをやってみたいな」
と思えるような、いつでも戻れる居場所が**在籍学級に
あることも大切だ**と思います。

そこでヒントになるのが、令和4年12月に改訂された
『生徒指導提要』で示されている「発達支持的生徒指
導」[図1]です。

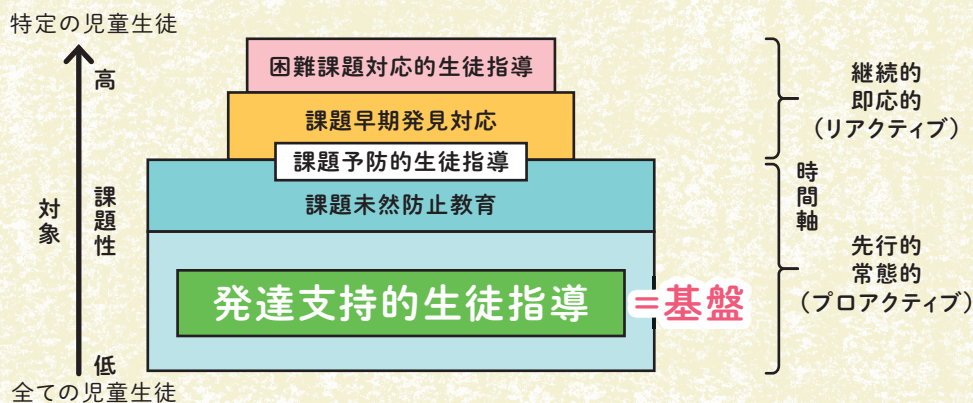
まずは、学校生活でいちばん長い時間を占める**授業
において、生徒指導の実践上の4つの視点**(「安全・

**安心な風土の醸成」「共感的な人間関係の育成」「自
己決定の場の提供」「自己存在感の感受」**)を意識して
みましょう。教師による声かけや働きかけ、教材や活動
の仕掛け等の発達支持的生徒指導を意識することで、
どの児童生徒でも「わかる喜び」を実感できる授業を
展開できます。むろん、学校行事についても、児童生徒
にとって魅力的なものになっているか、4つの視点から
みんなで点検していくとよいでしょう。

学校や学級が、全ての児童生徒の「心の居場所」や
「絆づくりの場」になると、心の交流が図られ、道徳科
の授業も自然と充実していきます。そして、**道徳科の授
業の充実は、生徒指導上の諸課題の未然防止へとつ
ながっていきます。**道徳教育(道徳科の時間を要として、
学校の教育活動全体を通じて行うもの)においても、4
つの視点から児童生徒の成長や発達を認め、励まし、
支える働きかけを行っていきましょう。全ての教育活動
がよりいっそう大切に意味のあるものになっていきます。

児童生徒が、「苦手なこともあるけれど、みんなと
いっしょにできて楽しい」、「疲れることもあるけれど、こ
の学級でよかった」と充実感や達成感を实感できるよ
うに。いつもあたりまえにしている児童生徒への声か
けや働きかけを、4つの視点からちょっと意識してみ
てはどうでしょうか。

[図1] 生徒指導の重層的支援構造



生徒指導に関する学校・教職
員向けの基本書として、平成
22年に作成、令和4年12月
に改訂された『生徒指導提
要』は、二次元コードからご
覧になれます。



光村図書

教授用資料

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)
デザイン 東京100ミリパルスタジオ
イラスト 坂本伊久子 野本雄一郎

光村図書ウェブサイト

光村図書 | Q

